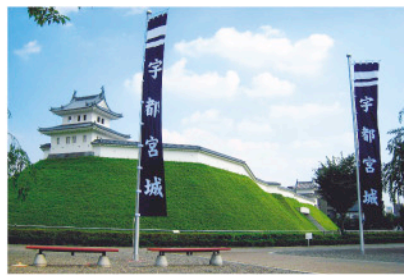


特別委員会が報告書を提出

平成21年6月議会で設置した「ブランド力を活かしたまちづくり」、「環境にやさしいまちづくり」、「福祉のまちづくり」、「安全・安心のみちづくり」の4特別委員会は調査を終了し、議長に報告書を提出しました。主な内容は次のとおりです。

ブランド力を活かしたまちづくり

1 スポーツ・歴史・文化を通じた宇都宮ブランド戦略
・スポーツを活かしたブランド戦略の展開には、環境整備が必要不可欠であることから、県と市が所有する同様の施設の役割を明確にし、効果的な施設整備を進めるべきである。
・二荒山神社は高い歴史的価値を持ち、市の象徴として市民に愛されてきたことから、その価値を積極的にアピールすべきである。
・宇都宮城については、土塁内空間の活用方法を早急に検討し、結論を出すべき



▲宇都宮城址公園

である。

2 観光資源を活かした

宇都宮ブランド戦略

・観光の中心は古くは大谷であったことから、地下空洞や景観など大谷特有の長所を他の観光資源と関連づけ、戦略に活用すべきである。
・自転車は市の魅力を高める個別ブランドとなっていることから、自転車マップの作成にあたっては、観光施設を取り入れ、ほかのブランドと一体的に推進すべきである。

環境にやさしいまちづくり

1 脱温暖化・資源循環型の

まちづくり
・太陽光発電の普及促進のため、「住宅用太陽光発電システム設置費補助事業」を継続し、行政として普及に向けた支援が必要である。また、環境教育・環境学習の観点からも、学校などへのモデル的導入を進めるべきである。
・資源循環を推進するには、さらなる細分別を実施し、生ごみなどのバイオマスの多面的な活用について調査・研究を進めていく必要がある。
2 自転車のまちづくり
エコ・サイクルシティ
・道路の新設・改良時には、自転車道や自転車レーンの設置・拡張が必要であり、既存の通学路や主要道路においては、既存の道路空間を活用しつつ、自転車利用者の安全性に配慮した道路整備が望まれる。
・レンタサイクル利用増加に向けて、利用実態やニーズを調査し、利用時間帯の変更などについて、十分検討する必要がある。

福祉のまちづくり

1 子育てしやすい環境の整備

・保育園や児童館、子育てサロン等からなる複合型の子育て支援施設の整備について、基幹保育園等の活用や総合コーディネーターの検討を踏まえながら、調査研究すべきである。
・事業所内保育所の整備は、待機児童の解消策としても有効であることから、現状でも補助制度はあるが、さらに相談窓口の設置や、中小企業等への支援体制の充実が必要である。



▲百貨店で授産品PR販売会の様子

の授産販売所の出店が効果的であることから、企業や関係団体との連携を強化し、出店に係る受け入れ側への優遇措置等について調査研究しながら、その設置に努めるべきである。

安全・安心のまちづくり

1 自然災害に対する防災力の強化

・住宅の耐震化については、建築士をはじめとする専門家などと連携・協力し、耐震改修工事などの重要性のPRや補助制度の充実など、市民が被害軽減に向けて投資するインセンティブを高める施策・事業を展開していくべきである。



▲消費生活センター

・一般建築物などの耐震化、不燃化や木造家屋密集地域の改善など、都市自体の防災構造の強化を継続的・段階的に目指すべきである。
2 消費者行政の推進
・多重債務や悪徳商法など、解決困難な事案に関して、弁護士、建築士、医師をはじめとする専門家などと連携協力した相談体制の構築など、消費生活センターの被害救済機能の強化に向けた施策・事業に取り組む必要がある。
また、被害に遭った後、再び被害に遭う事例が増加していることから、被害後の支援方策も講じていくべきである。